

「日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)」は、河川再生に関わる事例・経験・活動・人材等を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい水辺再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に2006年11月に設立されました。また、日中韓を中心に活動する「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時に海外の素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割を担います。

目次

	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ 会員寄稿記事	2
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	13
➤ 会議・イベント案内	14
➤ 冊子・ビデオ等の紹介	14
➤ 会員募集中	15

巻頭書記

約半年に渡って準備を進めてまいりました ARRN/JRRN 国際フォーラムも、いよいよ今月の開催となりました。河川再生に関わる諸外国の最新知見を学ぶ貴重な機会となることを目指しますとともに、単なる一過性の行事に終わらず、発表成果を講演録として記録に残すとともに、今回参加頂く講師や参加者との更なる交流の契機となれば幸いです。

本号では、日本及び世界を代表する河川 Award 行事参加報告をはじめ、多くの話題を JRRN 会員よりご寄稿頂き、これまでで最大となる 15 ページ構成のニュースレターとなりました。今後も全国から新鮮、かつ様々な話題に富んだ情報をご提供頂き、河川再生分野の一番の情報の拠り所となることを願います。引き続き皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

JRRN 事務局からのお知らせ

ARRN/JRRN 主催「第 8 回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム(11 月 11 日・東京)」最終案内

ARRN/JRRN 主催「第 8 回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム」が今月 11 日(金)に開催されます。

このフォーラムは、日本・中国・韓国を始めとするアジア諸国及び欧米の河川に関わる技術者・研究者等が集い、それぞれの国の河川・水辺を取り巻く社会情勢、先進的な河川・流域再生事例や技術の紹介、それぞれの国で抱える河川・水辺環境再生の課題の紹介に加え、公開討論を行う場として平成 17 年度より開催しているものです。

今年度は、『**減災と環境保全の視点から都市河川再生を考える**』をテーマに、豪州・台湾・韓国・中国、そして日本の河川実務者・研究者から、河川再生事例や災害等への取組みを紹介頂きます。講演及び討論は同時通訳を介しまして、日本語・英語で行いますので、どなた様でもお気軽に参加して頂けると思います。

まだ定員に空きがございますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第 8 回 水辺・流域再生に関わる国際フォーラム

主催 アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)
日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

日程 **2011 年 11 月 11 日(金)**
13:00~16:15(開場:12:30)

会場 **東京大学農学部弥生講堂**
(東京都文京区弥生 1-1-1 ※裏面地図参照)

定員 200 名(申込先着順)

参加費 無料

通訳 日英同時通訳

後援 (左) 日本河川協会/国際水工学会/財団法人河川環境管理財団
日本河川・流域再生ネットワーク(ARRN/JRRN) 建設技術研究所
中国河川・流域再生ネットワーク(CRRN)
中国水利水電科学研究所(WWRI)
韓国河川・流域再生ネットワーク(KRRN)
韓国河川(水)局/韓国環境技術研究院(KICT)
ヨーロッパ河川再生センター(EURR)/韓国河川再生センター(KRR)

プログラム

13:00-13:05 開会挨拶
13:05-13:15 ARRNガイドラインver.2の趣旨及び内容紹介
13:15-14:30 2011 年アリスベン川洪水被害への対応、及び豪州政府が取り組む河川・湿地管理と再生
Alastair McInnes (オーストラリア・National Water Commission 水計画部長)
台湾における最近の都市河川再生の取組み
Shiao-Hua Marko Hsu (台湾・逢甲大学教授)
韓国における水辺環境再生のための技術開発
Sukhwan Jung (KRRN 事務局長/韓水大教授)
14:30-14:40 休憩
14:40-16:15 河川における河川再生
～洪水防衛と生態復元に向けた生態系再生
Akihiro Orita (日本河川協会)
流域治水ー補修(河川)のインベメンション
島谷幸三(九州大学大教授)
全体討論(座長:玉川浩行(JRRN 会長))
16:15 閉会

減災と環境保全の視点から都市河川再生を考える

※参加申込は以下のパンフレットをご参照下さい

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/docs/ARRNJRRNforum2011.pdf>

(JRRN 事務局 インターンシップ生・金子拓哉)

会員寄稿記事(1)

第4回いい川・いい川づくりワークショップ(2011年9月24-25日)に参加して

寄稿者：坂本貴啓（筑波大学大学院博士前期課程 生命環境科学研究科・JRRN 会員）

1. はじめに

今年もこの時期がきた。今年で4回目となるいい川・いい川づくりワークショップ。「川の日」ワークショップと呼んでいた時代も合わせると14年の歴史がある。1年に1度の川仲間の七夕の日。全国各地で川の再生のため、活躍している老若男女が一堂に会し、自身の住む川を自慢し、お互いを讃えあう。そしてその中から今年のいい川をみんな話し合って決める熱い大会だ。

私はこのイベントに初めて参加したのが高校生の時だったので、7年目になる。そう考えると自分も結構長くこの世界に関わっていることになる。ある時は発表者で、ある時は聴講者、ある時はスタッフと様々な形で参加させてもらっている。

この大会の魅力は何と言っても、人との出会いにある。今まで自分が知らなかった川の人と出会い、お互いの川の話を話すうちに、交流が生まれる。「〇〇さんがいる川」ということで、その川が自身に身近な川となり、好きな川が広がっていく。今まで参加したワークショップを振り返り、知らなかった川を好きになった瞬間を思い出してみたいと思う。そして今年のワークショップの議論の特徴についても考えてみたい。



第4回（14回）いい川・いい川づくりワークショップ

2. ワークショップでの思い出

2-1. なぞのおじさんと竜宮城？（2005年WS）

高校3年生のワークショップ初参戦の年。この年は『愛・地球博』の年ということもあり、愛知県矢作川で開催された。高校生だけで県外に遠出したのは初めてで、周りの勢いに圧倒されながらも、流れにのまれまいと必死になって自分達の活動のPRをしたのをよく覚えている。

休憩時間になり、ロビーで昼食。何百人もの人が弁当を広げて食べるので、僕は隅っこの床に座り、弁当を食べる。弁当を食べていると、一人座る場所を探しているおじさんが、「床ですが、よかったら、ここどうぞ。」荷物を少し寄せておじさんのためのスペースをあける。「ありがとう。」おじさんも床に座って一緒にご飯を食べる。ご飯を食べながらおじさんと川の話をする。自分達の遠賀川のこと、自分達の活動グループのこと、今回初めて参加して緊張したことなどいろいろ話した。おじさんの話もきいていると、おじさんは佐賀からきたらしい。佐賀県の六角川や嘉瀬川で歴史の復元や自然再生の活動をしているという。

「そうだ、今度遊びにおいで！案内してあげるよ。」名刺が切れてしまっていたようで、紙切れに住所と電話番号と名前を書いてくれた。

地元に戻ってから数日後、おじさんの紙切れのことを思い出した。慣れないながらも、おじさんにお礼の手紙を書いた。

ところが、差出人には自分の家の住所を書いたはずなのに、意外なところを通して返事が来た。地元の遠賀川河川事務所に「ワークショップで出会った遠賀川の高校生らを武雄河川事務所にご招待します。川の案内役は私らがします。武雄河川事務所長より」自ら驚いたのもいうまでもないが、大人たちはもっと驚いていた。謎のおじさんはどうやら武雄の川を統括する所長さんだったようだ。市民団体の人の発表の応援で

一緒にきていたらしく、そんな時に僕達が声をかけたという経緯らしい。

現地では武雄河川事務所が保全に取り組んでいる、嘉瀬川の成富兵庫の治水史跡の石井樋や六角川の干潮区間などを案内していただき、事務所ではアザメの瀬の自然再生事業の話や、武雄で活動している高校生との交流会を開いて下さった。今でもこの時の所長さんとは交流があり、様々な場面でご助言を頂いている。

どこかできいたカメの昔話ではないが、ご縁はどこにあるか分からない。この時そう思った。好きな川の一つがここにできた。



第8回「川の日」ワークショップ in 矢作川にて発表(2005)



WSで知り合った所長さんに川案内をしていただく様子

2-2. 矢部川のお母さん (2006 年 WS)

私はそれぞれの川に「母」と呼ぶ人がいる。「産みの親」ならぬ、「川の親」といったところだろうか。その中の一人が矢部川のお母さん。

大学 1 年生の夏。今年は発表者ではなかったが、関東に引っ越して、若干ローカルシックになっていたの、ワークショップに参加してみた。

会場で元気のいいおばちゃんの演劇仕立ての発表を聞く。「矢部川一斉清掃の日ば、つくったとよ！そして、『矢部川をつなぐ会』ができたとよ！」会の男性を引き連れて、圧倒的な存在感だったのでよく覚えている。その後、懇親会で一緒になり、矢部川の話の聞いたり、大学生になって福岡を離れ、関東で一人暮らしをはじめたことなどいろいろ話した。「里帰りしたら矢部川に遊びにきんしゃい。」

そんな約束をして数日後、僕は初めての里帰りをした。僕の高校時代の活動拠点、遠賀川水辺館に立ち寄り、久々の地元でのんびりできると思ったのも束の間、大変な事態が待ち受けていた。

鹿児島島の川内川が記録的な水害に見舞われ、大きな被害がでており、復旧支援を求める連絡がはいってきた。明日にでもすぐということで、僕たちは遠賀川から翌日すぐに出発することになった。しかしこの時の遠賀川から行けた人数はたった 3 人。僕らの後の後発隊を探してお願いしておく必要があった。その時、ふと頭をよぎったのが、矢部川のおばちゃんの「なにか困ったらいつでも連絡してこんね」だった。

おばちゃんは話を聞くなり、「私のできることはなんでも協力するけん、気をつけていっておいで」と協力を申し出てくれた。おばちゃんの助けもあって、その後、九州各地の川から支援隊が入ったり、災害復旧募金などが設立されたりと円滑に支援を行うことができた。ここでも WS の出会いが意外な形でつながった。

復旧支援を終えたその年のお盆には、矢部川のおばちゃんのところへ遊びに行つて、矢部川を案内してもらい、鰻のせいろ蒸しをご馳走になったのは今でも忘れない思い出だ。



WSで知り合いになったおばちゃん案内の矢部川

2-3. 川の世界へようこそ!

このワークショップを通じて、たくさんの愉快的川仲間と出会い、自身多くの刺激を受けてきた。私だけでない。初めて参加した人はここで大きな感動を得る。

学生スタッフの募集を何度か呼び掛けたことがあるが、それがきっかけで川の世界へ入ってくることもある。学生スタッフとしてワークショップに参加した人の中には、川での活動自体が初めてで、最初はよく分からないまま参加する人も多い。ところが2〜3日の川仲間とのやり取りの中で、「今度、うちの川へ遊びにおいで。」とか、「あなたのような若い人がこういう場に出てきてくれて、嬉しかった。」などという話を聞いて元気になり、川活動のきっかけをつかみ、今では地域で活躍している友人も何人もいる。きっかけづくりの場としてワークショップは大きな役割を果たしている。



新しい仲間を連れてWS会場へ臨む

3. 今回のいい川・いい川づくり (2011年9月WS)

今回で14回の歴史を刻んだいい川・いい川づくりワークショップであるが、今回も2日間の発表では1川1川壮大なドラマがあった。

余生をかけて故郷の川を守ると誓うおじいさん、自分達の活動を懸命に伝えようとする高校生、時には行政の壁に挑む人すらいる。3分間のステージではあるが、濃縮されたドラマチックな3分間が展開される。今年、入賞した河川の活動の中を事例に挙げながら、キーワードになったものをいくつかご紹介したいと思う。

3-1. 豊かな川の旗印・アユ

今回、特に目立ったのが、アユが登場する発表だった。(芥川、庄内川・矢田川、黒目川、北川)

どの川もアユを清流再生のシンボルとしていて、川の豊かさの一つとしていた。大きく分けて「アユと漁協」、「アユと魚道」の2つの話があった。

「アユと漁協」に関する発表では、従来、漁協と市民団体は営利と非営利ということから対立にあるものと暗黙の了解があったが、今回の黒目川(埼玉県朝霞市)のケースでは、漁協が中心となって市民活動を行い、魚道改善運動はもとより、子どもの遊べる川づくりの協議や釣り人と漁協がお互いの黒目川の恵みを楽しめるルールづくりなど、合意形成に大きな役割を果たしたことが評価された(『市民漁協、禁漁は科学とモラル、話し合いで賞』として広松伝賞^{*1}受賞)。また、北川(宮城県延岡市)では、4歳から伝統漁法の「ちょんがけ」^{*2}でアユ釣りの名手の少年が13歳という最年少で漁協組合の正会員として迎えられた。これは、漁業権侵害という意味からアユを大量に捕まえる子どもを組合員とすることで保護するということと、伝統漁法継承で、漁協の世代交代を促進するものとして、大いに評価された。実際に兄弟によるちょんがけ披露では会場に歓声があがった(『14歳漁協員、ちょんがけ134匹 河の兄弟取りすぎで賞』として森清和賞^{*3}受賞)。今回の発表では、漁協活動という枠を超えた斬新的な活動として評価された。

また「アユと魚道」に関する発表では、アユが遡上

する健全な川を求めて魚道設置を行政に市民運動を通して要望するものであった。

庄内川・矢田川では「アユ遡上 100 万匹大作戦」と称し、現行魚道でのアユ遡上調査や水の通らない魚道の改善要望運動などを展開して改善が進んでいる点が市民活動の成果の一つとして評価された。発表では、「川の汚れは心の汚れ」と、37 年間活動をされてこられた会員の名言が会場をうならせた（『37 年間の景勝・継承・警鐘活動は 100 万匹のアユの遡上を可能にするで賞』で準グランプリ受賞）。

芥川では、7 年前の 2004 年にアユが堰下流まで遡上してきていることを確認してから「芥川倶楽部」を設立し、堰に市民による手作り土囊魚道を設置し、応急的に効果を発揮した。このムーブメントにより、国・府が本格的な魚道設置を行い、天然アユが都市部まで遡上するようになっていく。まずは自分達で応急的に魚道を作ったことで、行政を動かしたという行動力が高く評価された（『土のう積みの努力がひとと魚の喜ぶ芥川をつくるで賞』としてグランプリ受賞）。

このアユと魚道に関する発表では、最近魚道の設置・改善の要望が全国各河川で高まっている中、モデルとなる取り組みとして、改善要望が現在進行形の市民らには大きな勇気を与えたに違いない。

このように『アユ』を活動のキーワードとした川づくりは豊かな河川環境実現のための旗印となっている。日本各地の川でアユを釣って、取れたてのアユの塩焼きを食せる日はもう間近かもしれない。

3-2. スーパー高校生

川活動というと、どちらかというと現役をリタイアした大人が中心となっていく活動と思う方もいるかもしれないが、最近はどうでもない。意外と若い人の参加が多い。小学生から大学生まで合わせると、若い人が会の主体となっている活動は全エントリー 37 団体中 8 団体と 21% を占め、若い人が運営に参加しているものまで含めると 35% を超える。この若い新勢力、そのトレンドの一つがスーパー高校生による活躍だ。入賞・入選団体の中からいくつか取り上げてみる。

佐賀県立武雄高等学校科学部は 2005 年から地元の池の内湖のため池の特定外来生物のブラックバス・ブルーギルの駆除に取り組んでおり、堤返しを行っている。また堤返しにより池底に出現した外来魚の個体数を記録し、生態学的攪乱について考察している。さらに現状を把握した上で、産卵床を設置し、卵段階から外来種を駆除するという方策を提案するという極めて科学的なプロセスを踏んだ活動を行っている。また調査と同時に地域の伝統行事である堤返しを体験しているという点が科学と伝統の融合でユニークである（『池の内湖の悉皆調査をしっかりと行うで賞』で入賞）。

また、神奈川県の上向高校生物部は 2008 年から神奈川県西部の葛川で特定外来生物のオオフサモの除去に取り組んでいる。分布調査により、繁茂状況を確認したり、侵入時期を明らかにしたり、繁殖メカニズムを明らかにしたりした上で、土木事務所や市民団体に防除の協力を働き掛け、連携して対策を行っている。

科学的視点から現状を把握した上で、さらに社会に対し連携を呼びかけた事例として高校の部活動の域を大きく超えた活動である（『外来種のコントロール、未来に生きる若い力で立ち向かいま賞』で入選）。

高校生達の発表は科学的な視点を持ったもので、正確な理解ができるよう努めており、理科離れが叫ばれる昨今においても川が科学教育のよい機会ともなっている。同時に高校内の研究だけにとどまらず、地域と一緒に活動を行っているものがほとんどであった。

真実を追求する科学的思考力と自身達の熱意で問題を打開しようとする問題解決能力の 2 つを備えたスーパー高校生達。きっと川の未来は明るい。

3-3. 役に立つ役人

いい川づくりが進む中、市民ばかりが取り組んでいるようにみえるが、河川技術者達も活躍している。いくつか入賞事例を紹介する。

滋賀県流域政策局流域治水政策室では地先の安全マップを滋賀県の氾濫域全土に渡って作成している。従来のハザードマップはある一定の条件を与えた場合の氾濫想定に過ぎなかったが、それ以外の小さな水路や

内水も評価に加えたより実状に近いものが完成しつつある。これを基に最終的には防災に関する条例化までつなげるという実用的な取り組みが評価された（『安全度マップは風水より確かで賞』で準グランプリを受賞）。

兵庫県土木整備部土木局総合治水課では、武庫川の河川改修事業で治水と環境の両立を目指した多自然川づくりの取り組みが行われている。コンクリートを極力用いず、川の力を活かした河川改修を行っている。河川改修にかけられる予算は限られているが、うまく洪水による攪乱など川の特性を活かして低コストで多自然川づくりを行っている（『予算がないなら川の力を活かしましょう』として“いい川”技術賞受賞^{※4}）。

国土交通省出雲河川事務所では、事務所職員によるフォトコンテストを実施している。職員が斐伊川の四季の魅力を発見し、ホームページで公開している。この取り組みは職員の流域の自然環境への意識の向上や住民の活動を紹介したいという意識など流域事情に敏感になるユニークなスキルアップの取り組みとして評価された（2次選考・最終選考に進んでいないが、“いい川”技術賞受賞）。

最近では、マスコミなどで「役人」という言葉が世間一般に悪い意味で用いられることが多いが、「役人」とは本来、役に立つ人のことであると会場でも議論にあがった。市民の声と川の声に耳を澄ました河川技術者に私もなりたい。

4. ワークショップの仕掛け人

全国各地から、これだけ大勢の川仲間が一同に会して、好き勝手自慢をしあう集まりはおそらくここだけである。またこのワークショップは大会に集まる人もすごければ、大会を運営する人達もすごい。

このワークショップは『NPO 法人全国水環境交流会（代表理事：山道省三氏）』が運営を行っている。今から20年近く前に発足していて、言うなれば、川活動のパイオニアの団体がここだと思う。今でこそ、行政と連携した市民による川づくりは全国各地で活発に行われているが、河川法改正以前は市民と行政が一緒に川づくりを行うという事例はほとんどなかった。その最

初のきっかけづくりを始めたのが本団体だ。14年に渡りワークショップの運営をされているだけあり、数百名の会場を時間ロスなく運営していく。今回、学生スタッフとして参加させていただいた時に一番驚いたのが、メイン会場の移動で、午後の開始時間まで1時間しかない中、前会場の片づけから新会場の設営までを無駄なく終えた。事務局や実行委員の方、お一人お一人が自分の役割をしっかりと理解しており、混乱が生じない。私も以前イベントの運営をしたことがあるが、これが本当に難しい。ましてや、大人数で時間の制約が厳しいとなればなおのことだ。参加者としてこのワークショップに参加している人は皆元気をもらって帰っていくが、それは長年の実績を積み重ねた強力な縁の下での力持ちがいることを忘れないでほしい。

また、このワークショップの仕掛けのもう一つの特徴は全国各地の実行委員、立場が様々な実行委員など多様な顔ぶれの方々がいらっしゃる。

各セッション、プログラムごとに委員が変わる。北海道の委員の人がいれば九州の委員の人もある。また、市民団体の人がいれば、大学の先生、行政、企業の人など川に係るそうそうたる方々だ。これをみても、日本の川はみんなでタグを組んで川づくりが進んでいることがよくわかる。またこのワークショップをモデルにして、全国各地で地域ごとのワークショップも行われている（例：北海道川の日ワークショップ、東北川のワークショップ、川の日ワークショップ関東大会、しずおか川自慢大賞、川づくり会議みえ、九州「川」のワークショップ、ふくおか水もり自慢など）

誰が20年前に、20年後市民と行政がともに川づくりを行う姿を想像できただろうか？誰が全国各地から川仲間が集まり、川という繋がりだけで友情を築く未来を想像できただろうか？長年スムーズな運営をし、多様な川仲間をコーディネートしてきた全国水環境交流会の方々には足を向けては眠れない。



WSの運営を担うNPO法人全国水環境交流会の方々

5. おわりに

長くいい川・いい川づくりワークショップについて述べたが、いいものはいいい！文章では伝えられない会場の独特の高揚感、見ず知らずの人に誉められた時の嬉しさ、自分の近所の川が子どもに思えてくる不思議な気持ち……。ぜひ会場に足を運んで体験していただきたい。ここでの出会いは私にとって貴重な財産だ。来年七夕で再び会えることを願って自分自身の川活動・研究に精進するのと、来年どこの川から新しい人が現れるのか期待しながら、来年の15周年の大会を待ちたいと思う。

「いい」川と発音すると、不思議と笑顔になれる。川と人を元気にするこのワークショップ、来年は一緒に参加しませんか？



3次選考まで議論に上がったいい川づくりの事例を表彰

【参考】

※1 広松伝賞…行政の立場でありながら、役所内の反対を受けながらも、掘割を必死で守った当時柳川市職員の故広松伝さんの功績を称えて贈られる特別賞。役人でありながら、市民・住民の視点や立場で川や水辺復元に貢献する市民のために働いた人、笑顔の素晴らしい人、多くの人が認める“いい男”，“いい女”，“いいグループ”に贈られる。受賞者は九州「川」のワークショップに招待される。

※2 ちょんがけ…2m程の竹竿に付けた丸い針で泳いでいる魚直接引っかけて取る北川の伝統漁法。水中に潜り泳ぐ魚を直接狙う。

※3 森清和賞…横浜にハグロトンボの棲める川を呼び戻そうと奮闘した当時横浜市職員の故森清和さんの功績を称えた特別賞。森さんが子ども達を大好きだったことから、子どもに贈られる。川とふれあう子どもらしい元気にあふれた活動、多くの仲間に共感・希望を与える活動、川と真剣に向き合う勇気とやさしさにあふれた活動に贈られる。

※4 “いい川” 技術賞

“いい川”の保全や“いい川づくり”のために寄与した計画や工法，ユニークな発想やアイデアなど優れた技術の開発と応用を実践しているものに贈られる特別賞。

【筆者について】

坂本 貴啓（さかもと たかあき）

1987年福岡県生まれ。北九州市で育ち、高校生になってから下校途中の遠賀川水辺館へ寄り道をするようになり、遠賀川に興味を持ち始め、川に青春を捧げる。高校時代にはYNHC（青少年博物学会）、大学時代ではJOC（Joint of College）を設立して川活動に参加する。

筑波大学大学院 博士前期課程 生命環境科学研究科 環境科学専攻在学中。白川直樹研究室『川と人』ゼミ所属。研究テーマは『将来の社会変化を考慮した今後の霞ヶ浦管理のあり方について』を主として、河川・湖沼の河川管理の在り方や河川市民団体の特性について研究中。最近のお気に入り川は川の立体地図やダムカードを集めて眺めること。

会員寄稿記事(2)

第 14 回国際河川シンポジウム参加報告(9/26-29:豪ブリスベン開催)

寄稿者：都筑良明（島根大学汽水域研究センター協力研究員・JRRN 会員）



2011 年 9 月 26 日（月）～29 日（木）の 4 日間、ブリスベン（オーストラリア）で第 14 回国際河川シンポジウム(International RiverSymposium)が開催されました。今年は、日本からは唯一の参加者だったようですので、河川工学等を主要分野とされている方々には僭越な感じかもしれませんが、今年の概要等を報告させていただきます。昨年、日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）事務局より国際河川シンポジウムの全体概要（※P10 参照）を報告されていますので（JRRN ニュースメール 344 号、2010 年 10 月 25 日）、気が付いた点を中心に簡潔に報告します。

今年のシンポジウムのテーマは「川の価値（Values of rivers）」と定められ、河川の経済的価値、社会学的考察をテーマとしたセッションが数多く設定されるとともに、Indigenous people（いわゆるアボリジニと呼ばれるヨーロッパからの移民以前からオーストラリアに在住していた民族）で構成される First peoples water engagement council が結成されたこと等のオーストラリアのコミュニティ参加の流れを背景としてのことと思われませんが、コミュニティ参加が Indigenous people の方々を尊重するという視点を中心に議論が行われていました。日本でも、環境の分野において、一般市民の参加が課題とされてきた部分があり、地域レベルの一般市民が参加する様々な会議等が開催されてきたと思います。社会システムの相違点はあると思いますが、このような分野でも日本の経験を活用していただける可能性もあると思われます。河川工学、経済学、社会学、市民参加等の多様な分野で、河川に関わり、活動を行われている方々が参加し、相互に情

報交換、意見交換等を行う場として、広く活用していくことができれば、日豪のお互いの発展に寄与するのではないかと考えています。アジア太平洋地域の先進国である日豪がこのような場で協力していくことは、この地域の途上国の発展に大きく寄与することになるでしょう。日本の近隣諸国からの参加としては、豪中環境開発パートナーシップの枠組みに関連して、同パートナーシップのセッションが設けられるなど、中国からは 20 人程度の参加者がおられました。この点については、主催者側の International RiverFoundation, International Water Centre の方々と話をしたときに、日本からの参加者が増えて欲しい、発表や RiverPrize への応募に際して、言葉の問題を含めて困難な部分があれば、是非相談してほしいと言われました。



国際河川賞の表彰の様子

今年の International Riverprize のファイナリストはアメリカの 2 河川、オーストラリアの 1 河川でした。オーストラリアの河川からは多くの方が参加されましたが、アメリカの 2 河川からの参加者数はそれぞれ 3 人、1 人でしたので、Riverprize に応募した場合でも少人数での参加でも大丈夫なようです。Riverprize への応募方法が変更されるという未確認情報もありましたので、応募を考えている河川の方がい

らっしゃいましたら、主催者に直接確認していただきながら準備を進められると良いと思います。

Riverprize は高額な賞金が特徴です。International RiverFoundation から発行された River Journeys II によると、河川工学、ダム開発等を事業として行ってきた Thiess 社の創業者家族が多くの支援を行ってきたようです。土木機械のキャタピラ社、WesTrac も支援を行っているようです。1998 年に第 1 回のシンポジウムが開催され、1999 年の第 2 回シンポジウムにおいて International Riverprize が賞金 10 万豪ドルで設けられ、2001 年の第 4 回からは National Riverprize（賞金 2 万 5 千豪ドル）が設けられました。2005 年以降、賞金総額が 20 万豪ドル、30 万豪ドル、40 万豪ドル、50 万豪ドルと年々増額され、2009 年には International Riverprize は 35 万豪ドル、National Riverprize はオーストラリア政府がスポンサーとなりました（賞金 20 万豪ドル）。International Riverprize を受賞したアジアの河川には、2002 年のメコン川（東南アジア）、2006 年の Sha River（中国）があります。流域人口約 20 万人、2 万 7 千人の河川も受賞していますので、規模に関わりなく、環境修復、市民参加等の視点が重視されているようです。



開会式でのアボリジニの音楽演奏

9 月 26 日（月）の開会式には、20 か国から 500 人の参加者がブリスベンのコンベンションセンターに集まり、オーストラリア連邦（Commonwealth）の環境水ホルダー（Environmental Water Holder, 2007 年

連邦水法に基づき設置された。環境水に関する権威保有者とでも訳されるでしょうか）の Ian Robinson 氏により開会が宣言され、アボリジニの伝統的なパフォーマンスによる開会セレモニーが行われました。開会セレモニーでは、2 人のオランダ人によるキーノートスピーチが行われ、伝統的に洪水対策に力を入れてきた経験を、最近のクイーンズランドの洪水の経験に関連付けたスピーチが行われました。



開会式前日（25 日）のブリスベン市中心部モール特設ステージでのカントリー音楽演奏

開会式に先立つ 9 月 25 日（日）には、ブリスベンの中心市街地のモール（前日歩行者天国形式の商店街）の特設ステージで、一般市民向けのプログラムが開催され、専門家のスピーチ、学生の発表、Indigenous people の楽器の演奏、カントリー音楽の演奏により、モールの一般市民向けに International RiverSymposium を宣伝する試みも行われました。最終日の午前中には、恒例の The Great River Debate において、The solution to flood management is better engineering.（洪水管理の解決方法は、工学的方法に求めるべきなのか）というテーマによる議論が行われました。

ここ数年のプログラムを見ると、河川工学から、経済学、社会学、市民参加等のテーマまで幅広く、学術的な発表から、自治体や水機構のような団体の実務者による発表、環境 NGO による発表まで幅広いのが 1 つの特徴になっているようです。



国際河川シンポジウムの発表風景

拙論では大和川で 2005 年から行われている家庭で行うことができるソフトな対策の社会実験をテーマに、経済的な側面の考察を加えるなどの内容で発表を行ってきました。オーストラリアでは **Healthy Waterway** というコミュニティ参加のプログラムがあるのですが、**Healthy Waterway** は、屋内、屋外の両方の活動が対象となり、水だけでなく廃棄物も対象にしていることが特徴です。これに対して、日本のソフトな対策は 1980 年代後半から、屋内で行うことができる水質汚濁負荷排出量の削減対策を中心としてきた点が特徴で、少しずつ関心を持ってもらえるようになってきたような気がします。

International RiverSymposium は、International RiverFoundation, International Water Centre が置かれているブリスベンで長く開催されてきました。昨年の第 13 回シンポジウムが初めて開催地がパース（西オーストラリア州）に移動し、来年の第 15 回シンポジウムは 10 月にメルボルン（ビクトリア州）での開催が予定されています。これまでの International RiverSymposium のプログラム、発表スライド等は、International RiverSymposium のホームページ（<http://www.riversymposium.com>）で閲覧可能です。

国際河川シンポジウム

（International RiverSymposium）とは？

JRRN 事務局

International Riversymposium は、オーストラリア政府系 NGO「International Water Forum」の年次行事として 1998 年から始まり、本年で 14 年目となります。

河川管理に関わる豪国内及び世界の成功事例を、河川再生の担い手である行政機関・公益組織・研究者・技術者・地域コミュニティ・事業者等で共有し、河川及び流域の生態的・社会的価値をより高めることを目標とする行事です。本シンポジウムでは、毎年「河川賞(Riverprize)」として優れた河川再生活動が国内外 1 事例ずつ表彰され、河川分野で名誉に当たる賞の一つとして世界的にも認められています。

なお、本行事の概要については、昨年（平成 22 年）の第 13 回大会に JRRN 事務局として参加した際の参加報告書をご覧ください幸いです。



■ 第 13 回国際河川シンポジウム参加報告 (PDF3.9MB)

http://www.a-rr.net/jp/info/letter/docs/13thRiversympo_report_JRRN.pdf

会員寄稿記事(3)

吉川先生のこと

吉川勝秀日本大学教授が9月10日にご逝去されました。60歳でした。ご逝去を悼み、謹んで哀悼の意を表します。

まず、吉川さんについてお話ししたいことは、リバーフロント整備センターに勤務されていて、技術普及の一環として河川環境の国際交流に尽力され、国際フォーラムを始めるなど、今に続くARRN（アジア河川・流域再生ネットワーク）活動のきっかけを作った草分けであることです。吉川さんがおられなかったらARRNもなかったかもしれません。

以下、吉川さんの生前について私との関わりを中心に述べてみたいと思います。私が吉川さんを知ったのは、土木研究所（当時は建設省の付属機関でした）へ研究職として入ったときからです。入所早々新人研修があり、当時は1年先輩研究員から世話役が選ばれて指導に当たることになっており、それがたまたま吉川さんで、他の同期とともに、1ヶ月間べったり指導を受けました。その後、吉川さんと同じ河川部に配属されて、今度は実践の研究の場で有益なアドバイスをいただきました。また、研究テーマによってはライバルであった時もありました。その後、行政に出てあちこち転勤する中でも、たびたび接点があり、スケールの大きい

寄稿者：佐合純造（JRRN 事務局長）

河川整備のアイデアの熱弁をよく伺いました。リバーフロント整備センターでは私の前任者が吉川さんでした。

吉川さんは若いときから変わらず、行政や研究に熱意をもって取り組んでこられました。その分野は多岐にわたっており、いずれにも全力であたり、そのまとめ方も的確でした。その成果は河川、環境にとどまらず、福祉、医療、交通など利用面に広がっており、多くの著作（下記の主な著作参照）を残されています。こんなに多くの著作を残されたのはご自分の運命を予感されていたのかもしれませんが。

ただ、研究への情熱からか少々強引なところもあり、凡人にはなかなかついていけなかったのも事実です。私もその1人でした。しかし、常に多くの情報、時には激励を与えていただきました。吉川さんの発想の豊かさ、人脈の広さは誰もが認めるところです。

蛇足ですが、亡くなられた後に、携帯の着信に吉川さんの携帯番号があることに気づきました。生前、資料のことなどでよく問い合わせの電話をいただきましたが、今回の着信日付は亡くなられた後のものでした。吉川さんが最近どんな研究を考えておられたのか少々気になっています。

<吉川勝秀先生の 2000 年以降の主な著作>



水辺からのメッセージ No.30

国土文化研究所 特任研究員 岡村幸二 (JRRN 会員)

銀山ならではの温泉情緒：
建築された当時としては非常にモダンな三層四層の木造バルコニー建築



撮影：2011年6月（山形県尾花沢市・銀山温泉）

◆レトロブームに火をつけた銀山温泉の夕暮れの町並みは、温泉気分の情緒をふくらませてくれます。大正ロマン漂う光景は、温泉のシンボリックな風景となっており、これを守るため、銀山温泉家並保存条例がつくられています。

※国土文化研究所は、株式会社建設技術研究所のシンクタンク組織です。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。(JRRN 事務局)

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ(2011 年 10 月末までの提供分)

【JRRN 会員からの提供情報】

■『第 8 回柿田川シンポジウム-柿田川の水の成り立ちと生き物』(11/5 開催)

柿田川生態系研究会からの行事のご案内です。

○主催：柿田川生態系研究会

○日時：2011 年 10 月 19 日 (水)
13:00~17:40

○場所：ホテル・エルムリージェンシー (静岡県清水町)

◆詳細は以下参照

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/event/2930.html>



【JRRN 会員からの提供情報】

■『第 6 回ため池シンポジウム in 佐渡』(11/5-6 開催)

新潟県佐渡市で 11 月に開催される行事のご案内を頂きました。

○日時：平成 23 年 11 月 5 日~6 日

○場所：新潟県佐渡市

○主催：第 6 回ため池シンポジウム実行委員会 in 佐渡

◆詳細は以下参照

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/event/2954.html>



【JRRN 会員からの提供情報】

■『平成 23 年度 第 3 回多自然川づくり研修会』(11/29 開催)

「鞍瀬塾」様より、愛媛県内で 11 月に開催される「平成 23 年度 第 3 回多自然川づくり研修会」のご案内を頂きました。

○日時：平成 23 年 11 月 29 日 火曜日 10:30-16:00

○場所：五十崎自治センター (愛媛県喜多郡内子町)

○講師：多自然サポートセンター要員、愛媛県土木部職員、内子町職員

◆詳細は以下参照

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/event/2949.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■「河川文化を語る会」

JRRN 団体会員である公益社団法人日本河川協会から河川文化を語る会のご案内です。

【第 161 回】

◆テーマ：「東日本大震災の復興と共生社会の実現」

◆講師：室崎益輝氏 (関西学院大学総合政策学部教授)

◆日時：2011 年 11 月 22 日 (火) 18:30~20:30

◆場所：エル・おおさか (大阪府立労働センター)

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/event/2908.html>

【第 162 回】

◆テーマ：「生涯学習の場としての植物園~水戸市植物公園の 25 年」

◆講師：西川綾子氏 (水戸市植物公園長)

◆日時：2011 年 12 月 19 日 (月) 18:00~20:00

◆場所：厚生会館 (東京都千代田区)

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/event/2928.html>

【第 163 回】

◆テーマ：「日本人の「自然災害死史観」

◆講師：大石久和氏 (財団法人国土技術研究センター理事長)

◆日時：2012 年 1 月 17 日 (火) 18:00~20:00

◆場所：厚生会館 (東京都千代田区)

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/event/2960.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■『第 14 回河川生態学術研究会合同発表会』(11/17 開催)

○日時：平成 23 年 11 月 17 日 (木)

○場所：発明会館ホール (東京都港区)

○参加費：無料

○主催：河川生態学術研究会

◆詳細は以下参照

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/event/2966.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■「隅田川市民交流実行委員会の平成 23 年度行事予定 (下期)」案内

「隅田川市民交流実行委員会」様より、平成 23 年度後半に予定されている隅田川に関わる諸行事のご案内を頂きました。

(平成 23 年)

- ・10 月 15 日 (土) 隅田川クリーン大作戦(隅田川の清掃活動)
- ・11 月 23 日 (水・祝) 第 25 回 隅田川市民サミット ~25 周年記念シンポジウム
- ・11 月 26 日 (土) ~27 日 (日) 「四万十町展」
- ・12 月 10 日 (土) 隅田川大学公開講座 (文化実践講座) 第 2 回

(平成 24 年)

- ・2 月 18 日 (土) 隅田川大学公開講座セミナー・懇親会
- ・3 月 17 日 (土) 隅田川大学公開講座 フィールドワーク (FW) 第 20 回

◆詳細はこちら：<http://www.a-rr.net/jp/exchange/event/2932.html>

隅田川市民交流実行委員会

2011 年度(平成 23 年)行事予定 (下期)

- ・10月15日(土) 隅田川クリーン大作戦(隅田川の清掃活動) 会場：隅田川(隅田川クリーン大作戦実行委員会)
- ・11月23日(水・祝) 第25回 隅田川市民サミット ~25周年記念シンポジウム 会場：隅田川市民サミット実行委員会(隅田川市民サミット実行委員会)
- ・11月26日(土) ~27日(日) 「四万十町展」 会場：四万十町(四万十町)
- ・12月10日(土) 隅田川大学公開講座(文化実践講座)第2回 会場：隅田川大学(隅田川大学)
- ・2月18日(土) 隅田川大学公開講座セミナー・懇親会 会場：隅田川大学(隅田川大学)
- ・3月17日(土) 隅田川大学公開講座 フィールドワーク(FW)第20回 会場：隅田川大学(隅田川大学)

隅田川市民交流実行委員会
〒111-0042 東京都台東区2-9-9 (近江町)
電話 03-3844-2008 FAX 03-3842-6892

会議・イベント案内（2011 年 11 月以降）

（JRRN/ARRN 主催・共催の会議・イベント）



国際フォーラム参加申込受付中！

※参加申込はこちらから↓

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/information/2914.html>

（その他の河川再生・河川環境に関する主なイベント）

■水利用と産業のかかわりに関するシンポジウム～最近の水環境施策から（名古屋及び東京で開催）

○日時：2011 年 11 月 2 日（水）及び 9 日（水）

○主催：社団法人産業と環境の会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2927.html>

■荒川放水路建設から 100 年シンポジウム

○日時：2011 年 11 月 3 日（木・祝日） 14:00～17:00

○主催：明治 43 年大洪水から 100 年実行委員会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2919.html>

■第 8 回柿田川シンポジウム（P13 参照）

○日時：2011 年 11 月 5 日（土） 14:00～17:00

■第 6 回ため池シンポジウム in 佐渡（P13 参照）

○日時：2011 年 11 月 5 日（土）～6 日（日）

■第 9 回環境研究シンポジウム

○日時：2011 年 11 月 8 日（火） 12:00～17:30

○主催：環境研究機関連絡会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2918.html>

■第 14 回河川生態学術研究会合同発表会（P13 参照）

○日時：2011 年 11 月 17 日（木） 10:30～17:45

■東京の水辺空間シンポジウム

○日時：2011 年 11 月 21 日（月） 15:00-18:00

○主催：東京都産業労働局

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2957.html>

■第 161 回河川文化を語る会（P13 参照）

○日時：2011 年 11 月 22 日（火） 18:30～20:30

■第 25 回 隅田川市民サミット（P13 参照）

○日時：2011 年 11 月 23 日（祝・水） 13:30～16:30

■都田川フィールドシンポジウム

○日時：2011 年 11 月 26 日（土） 9:30～12:30

○主催：応用生態工学会名古屋

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2934.html>

■平成 23 年度第 3 回多自然川づくり研修会（P13 参照）

○日時：2011 年 11 月 29 日（火） 10:30～16:00

■東北の川ワークショップ流域交流 in 北上川 2

○日時：2011 年 12 月 10 日（土）～11 日（日）

○主催：NPO 法人 水・環境ネット東北

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2906.html>

■第 162 回河川文化を語る会（P13 参照）

○日時：2011 年 12 月 19 日（月） 18:00～20:00

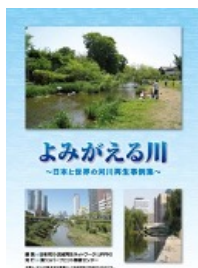
冊子・ビデオ等の紹介

■よみがえる川～日本と世界の河川再生事例集～（2011.4 発刊）

・編集：日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）

・発行：（財）リバーフロント整備センター

・価格：無料



※本冊子の入手方法

本事例集をご希望の方は、JRRN 事務局までご連絡ください。なお、JRRN 会員限定サービスとさせて頂き、送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。非会員の方は、JRRN 会員登録後にお申込下さい。

info@a-rr.net / 電話：03-6228-3862

■多自然川づくりポイントブック III 中小河川に関する河道計画の技術基準・解説（2011.10 発刊）

・著者：多自然川づくり研究会

・編集：（財）リバーフロント整備センター

・発行：公益社団法人 日本河川協会（2011/10）

・価格：¥2,500（税込）



本書は、多自然川づくりのポイントブックの第 3 弾として、技術基準改定（平成 22 年）における河岸・護岸・水際部に関する具体的な解説とともに、ポイントブック II の内容に見直しを加え再編集されたものです。

会員募集中

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。
市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、
所属団体や機関を問わず、河川環境の整備・改善に携
わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

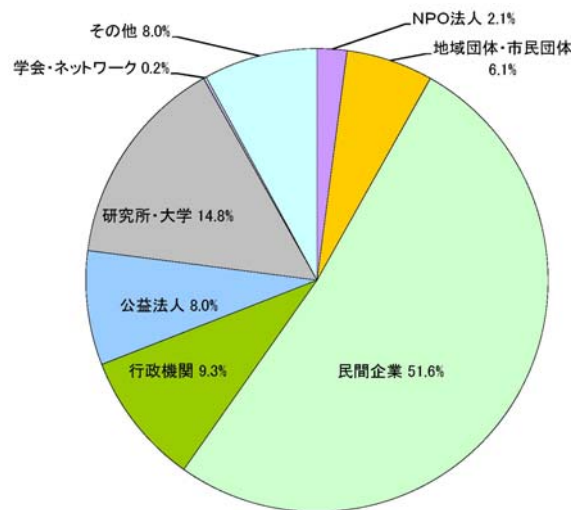
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」を
ご用意しています。

- (1) 国内外の河川環境に関するニュースを集約した
「JRRN ニュースメール」が週に 1 回～2 回メール
配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が
入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加
することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集
の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベ
ント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川
再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援
を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/info/member.html>



2011 年 10 月 31 日時点の個人会員構成

(個人会員数：527 名、団体会員数：41 団体)

JRRN 会員特典一覧表(団体会員・個人会員)

JRRNが提供するサービス		JRRN 団体会員	JRRN 個人会員	非会員 (一般の方)
1	ホームページへのアクセス及び各記事へのコメント入力※1	◎	◎	◎
2	ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載※2	◎	◎	◎
3	ニュースメール(週2回)の配信※3	◎	◎	×
4	Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信※3	◎	◎	×
5	JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加※4	◎	◎	×
6	国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援※5	◎	◎	×
7	ホームページ「最近の話題・ニュース」及びニュースメール「会員提供情報」欄で 団体が関わる行事や出版、技術や製品等の案内の掲載※6	◎	△※7	×
8	ホームページ「会員登録」「人・組織のつながり」欄及び年次報告書内で団体 名の掲載	◎	×	×
9	ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信※8	◎	×	×
10	JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援※9	◎	×	×

【発行・問合せ先】



日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局

財団法人リバーフロント整備センター 内

〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 新川中央ビル 7 階

Tel:03-6228-3862 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

JRRN は、「アジア河川・流域再生ネットワーク構築と活用に関する共同研究」の一環として、(財)リバーフロント整備センター
と(株)建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

